

総合南東北病院における院内感染に対する郡山市の対応について

郡山市保健所におきましては、感染症法に基づき、平成29年12月19日に市内の医療機関である総合南東北病院から「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（CRE）」の発生届を受理しました。

その後、本年1月24日までの間に5例、計6例の発生届を受理しました。

これらの届出6例のうち3例について、福島県衛生研究所で菌の遺伝子検査を実施したところ、国内では珍しい遺伝子型であり、他の遺伝子型の菌より効果のある抗菌剤の種類が少ない「KPC型」というタイプであることが1月18日に判明しました。他の1例については、2月14日に福島県衛生研究所で「KPC型」と確定され、残り1例は病院の簡易検査で「KPC型」と判明しております。残りの1例は「KPC型」ではありませんでした。

郡山市保健所としましては、同病院に対して、院内で感染した可能性が高い旨を指摘するとともに、医療法に基づき厳重な感染拡大防止対策の実施と対応の経過報告を提出することを指導してきたところですが、さらに、この院内感染を健康危機管理に関わる案件と認識し、厚生労働省、国立感染症研究所及び福島県と連携し、院内感染の封じ込めを図ってまいります。

記

1 事案の概要

(1) 場 所 総合南東北病院 (病院長 寺西 寧)

(2) 感染症の起因为菌

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌※〔感染経路：接触感染〕

※ 感染症法：5類感染症（診断した医師は全数を最寄の保健所へ届出）

肺炎や尿路感染症などの原因となる場合が多く、主に感染制御機能の低下した患者や外科手術後の患者、抗菌薬を長期にわたって使用している患者などに感染症を起こす。健常者では無症状で腸管等に保菌されることも多い。

(3) 患者及び保菌者

発症届出者数 6名

保菌者数 12名

2 病院側の対応状況

- CRE対策会議の開催〔情報共有、対策の検討・立案・実施、スタッフへの周知〕
- 感染制御チーム（ICT）による院内ラウンドの強化〔インфекションコントロールドクター（ICD）、感染管理認定看護師（ICN）等の多職種による現場での厳重な感染対策を実施・指導〕
- 専門家からの受援〔福島県立医科大学附属病院感染制御部スタッフによる助言・指導〕
- 郡山市保健所への報告（平成30年1月18日）

3 保健所の対応状況

- 12月19日 1例目の発生届收受
（以降、1月24日までの間に5例、計6例の発生届を受理）

- 1月18日 6例のうち3例について、KPC型であることが判明（検査機関：福島県衛生研究所）
→ 医療法に基づく厳重な感染対策の実施及び感染対策の実施状況の報告を指導

- 2月14日 残り1例について、KPC型であることが判明（検査機関：福島県衛生研究所）

- 2月15日 病院立入検査の実施
→ 引き続き、厳重な感染対策の実施及び感染対策の実施状況の報告を指導

4 記者発表出席者

郡山市保健所 所長 阿部 孝一（あべ こういち）

郡山市保健所 次長 朝倉 陽一（あさくら よういち）